

内野山治療院便り No. 26

テーマ 「神経痛」

私たちの体には、思考や五感を働かせたり、身体の各部分を動かしたり、熱い・冷たい・痛い・触れたなどを感じたり、内臓を機能させたりするために神経という電線が体中に張り巡らされていて、それが、正常に働いてくれることで日常の生活が成り立っているのです。また、神経には脳と脊髄からなる中枢神経とその枝となる末梢神経の2つの種類があります。末梢神経は、さらに運動神経、感覚神経、自律神経に分けられ、このうち感覚神経が何らかの原因で刺激を受け、痛みが起こる症状を神経痛と言います。

神経痛の痛みは、始まりはピリピリあるいはジンジン、ズキズキなど刺すような鋭い痛みが多く、長引いて慢性化してくると、ドーンやジーン、ズーンなどの鈍い痛みが変わっていったりもします。発症の要因を特定することができない特発性というのあれば、はっきり特定することができる症候性というのもあり、よく起こるものとしては、顔の三叉神経痛やおしりから足にかけての坐骨神経痛などがありますが、全身に神経は走っているので様々な部分で起こる可能性があります。また、何となく高齢の方の病気と思ってしまいがちですが、現在のストレス社会で、おまけにコロナ過でさらに免疫力の低下が ocorrênciaやすく、若い方々にも多く見られます。

最近では、子供の頃にかかる水ぼうそうウイルスによる帯状疱疹が多くみられ、治癒後に残る神経痛に悩まされる方が2, 3割くらいいます。加齢や疲労、ストレスや病気によって免疫が低下することによって、帯状疱疹が発症しますが、神経と皮膚を侵すので、皮膚には発疹の痕が残り、神経痛が残ってしまうのです。男女比でいうと女性の方が少し比率が高いようです。今のところ、治療としては神経ブロック注射カリリカ（プレガバリン）や抗うつ薬になります。ある程度症状が治まる人と、そうでない人と個人差があるようですが、発症してしまった方のお話を聞くと、とてもお辛いようです。

そして、「はり灸」を受けている皆様で、神経痛の症状の訴えはかなり多くあります。これは、神経というのは、傷ついたりダメージを受けたり、老化するとなかなか回復しにくいという特徴があり、特に、原因のよく分からない場合には、薬で痛みを抑えておくだけになってしまうからです。電柱にある電線なら、新しいものに交換してつなぎ直せば済みますが、からだの神経はそう簡単にはいかないのです。

では、なぜ神経痛に「はり灸」をするといいのか？ 痛みはカラダの異常を知らせる信号なのですが、特徴として一度出はじめると、どんどんと信号を出し続けてしまいます。それを制御し抑えるための脳内ホルモンの働きを引き出してくれます。その間に、血の巡りを良くし改善させていくのです。もともと、「はり灸」をする場所（ツボ）やそのツボをつないでいる通り道は、神経の走行と重なる事も多く、とても関係が深いと考えられます。ご興味のある方は、書店で東洋医学か健康書のコーナーにツボや経絡（けいらく）の本があります。一度手に取ってご覧になってみて下さい。

